

令和2年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立越ヶ谷高等学校 全日制の課程)

目指す学校像	「知・徳・体」の調和がとれた社会の発展に貢献する人材の育成
--------	-------------------------------

重点目標	1 家庭学習時間の確保とアクティブラーニングの推進 2 国公立大学進学希望者への支援充実で国公立大学合格者50名以上 3 規範意識及びマナー意識の高揚と部活動・学校行事を通じた人づくり 4 地域・保護者との連携・協力の強化と施設事故及び教職員事故ゼロ 5 夏季短期海外研修の内容の充実とグローバル化に伴う生徒の発信力の向上
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度目標		学校自己評価			年度評価(1月31日現在)		学校関係者評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和3年2月25日
1	○昨年度、平日2時間、週14時間以上の学習時間は達成したが、特に1・2年次生はこれを維持することが課題である。また、700名を超える生徒がタブレットを活用している現状を踏まえ、タブレットを活用した授業の工夫を進めることも課題である。更に部活動との両立を図る中で、学習量を確保するため学習室の更なる活用やスタディサブリの有効活用が求められる。 ○昨年度、未来を拓く学びプロジェクト公開授業などの実施によりアクティブラーニングの授業展開が広がり「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて校内の意識も向上している。今後は喫緊に迫る高大接続改革及び新学習指導要領を踏まえ、生徒の主体的学習力の養成と教員の更なる指導力向上が求められる。	○1・2年次生に関し、引き続き平日2時間、週14時間以上の学習時間を達成する。 ○学力の3要素を育む視点を踏まえ、全校で授業力向上に一層取り組む。	①タブレット等端末使用によるスタディサブリの一層の活用を促進するため、各年次、関係分掌、及び教科が連携して、生徒の取組状況の進行管理を行う。 ②タブレットをはじめとするICTを活用した授業を研究する。 ③スタディサブリの課題配信やアンケートメッセージ機能を有効活用する。	①生徒アンケートで平日2時間、週14時間の学習時間を達成できたと回答した者が8割以上に達したか。 ①模試の結果が昨年度を上回ったか。 ②ICTを活用した授業の教員が昨年度より増えたか。 ③1・2年次生のスタディサブリの利用割合が9割を超えたか。	○平日2時間、週14時間の学習時間の確保までには至らなかった。(1・2年次とも平日平均1.5時間) ①平日2時間以上学習した割合は全校では約4割、1・2年次では約2割であった。 ①11月模試3教科全国偏差値55以上の人数は1年166人(前年159人)、2年81人(前年131人)であった。 ②プロジェクタ及びタブレットを活用した教員は、各々82%、41%であり、8割を超える教員がICTを活用した授業を行っている。 ③殆どの生徒がWi-Fi環境にあり、特に臨時休業期間中スタディサブリを有効活用した。	B	・平日2時間の学習量を確保するために、導入5年目とするスタディサブリの活用方法や週末課題、隙間時間等の使い方について生徒へ具体的指導するとともに、教職員もスタディサブリの有効活用に向けて継続的に配信していくことが課題である。 ・今後、新型コロナウイルス感染状況に応じ、登校における対面指導と保護者アンケートでも要望があったオンライン学習を組み合わせて実施できるよう、迅速に準備を進めることが課題である。	・自宅での学習時間2時間以上が習慣になると良い。 ・年度当初の臨時休業期間中、スタディサブリを活用して家庭学習をしたり、メッセージ機能を用いて質問・相談したり有効活用していた。 ・スタディサブリやタブレットの活用が徐々に進んでいるようである。オンライン学習については今後も必要性を感じるので、オンライン学習環境の準備をお願いしたい。 ・スタディサブリについては、授業へ繋げられるよう上手に活用し生徒の学習に役立ててほしい。 ・ICTを活用した授業は生徒目線から大変分かり易いので、今後も続けてほしい。 ・タブレット等端末を今後も増やしていただけると、さらに生徒が主体的に学ぶ機会が増えると思われる。 ・「思考力・判断力・表現力」の育成や「主体的に他者と協働して学ぶ態度」の育成は、中学校でも課題である。今後も教員一人一人の授業に対する意識改革と研修が必要であると考える。
2	○現役国公立大学合格者数は21名(卒業生321名、昨年度比-5名)、G-MARCH以上の難関大学合格者数は109名(昨年度比-6名)であった。重点目標達成のため、昨年度入学生から1年次に国公立大学進学希望者クラスを設置した。現在、国公立大第1希望が1年次生、2年次生各々約130名、90名である。今後は国公立大合格に向けての意欲を3年間持続させるために、バランスよく5教科の学力を高める支援を行うとともに保護者への情報提供を適時に行うことが求められる。	○国公立大学進学に向け、生徒及び保護者への意識啓発に取り組む。国公立大第1希望者の割合を高める。	①国公立大への進学指導を充実させ、二者・三者面談、進路通信や講演会等を活用し国公立大に関する情報提供を継続的に行う。 ②大学入学共通テスト対策を各教科で研究し授業や補習を通じ得点力を向上させる。 ③個人ブースが増えた学習室の環境を一層整え、有効活用を促進する。 ④高大接続改革の眼目「思考力・判断力・表現力」を測る問題を定期考査やスタディサブリの課題配信の一部で出題する。	①首都圏近郊及び地方国公立大の情報提供を適時かつ適切に行い、受験希望者数の増加に繋がられたか。 ②各科目とも大学入学共通テストの平均点を概ね10点上回ることができたか。 ③ほぼ毎日生徒は学習室を活用したか。 ④「思考力・判断力・表現力」を高める問題を継続的に出題することができたか。	○学力の3要素を踏まえた授業力の向上に多くの教員が努めることが出来た。 ①授業研究期間でのワークシートは全員提出に至らなかったが、1人当たり平均授業見学回数は約2回であった。 ②「主体的・協働性を高められた」と回答した生徒は69.7%のばり、評価指標をほぼ達成できた。 ③新型コロナウイルス感染拡大防止の為、未来を拓く学びプロジェクト公開授業は県教委の方針で中止となった。 ④感染防止に関するガイドライン(県教委)により、アクティブラーニングが制約され、職員研修会の開催は見送った。それに代わりオンラインツール活用方法をICT研修会を2回(9月12日)実施した。	A	・国公立大学進学希望者クラスを設置して2年が経過し、概ね国公立大学第1希望者は1・2年次とも約3クラスを維持しており、今後は新入生も含め希望者数を維持若しくは増加させることが課題である。 ・今回の大学入学共通テストの結果を踏まえた職員研修会等を通じ、次年度へ向けた改善点と対策を明確にし、現1・2年次生に対し組織的に指導することが課題である。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえつつ、進路行事の工夫改善を行うことが課題である。 ・引き続き、生徒、保護者のニーズに応え、タイムリーな情報提供を行うことが課題である。	・中学生の多くが大学進学を視野に入れている現状において、大学で何を学ぶか等、学ぶ目的を発達段階に応じて育成する必要性を感じている。 ・来年度は国公立大学進学希望者クラスを設置して最初の学年が受験することとなるので、成果が表れるよう期待している。 ・国公立大学進学希望者クラスは勉強に対するモチベーションも高いので存続していただきたい。 ・2年次保護者対象の進路説明会は非常に有意義であった。今後は内容にもよるが、下級生の保護者にも参加してもらおうが良い。 ・学習室の利用率も高いので、利用時間の延長や学習室の増設を望みたい。
3	○昨年度、自転車による加害事故件数はゼロであったが、被害事故件数や登下校時の苦情件数に大きな変化はなく、引き続き自転車事故発生件数や近隣住民からの苦情件数をなくすことが課題である。 ○スマートフォンによる指導件数も大幅な減少までには至っておらず、「スマホ8か条」の啓発活動などを粘り強く行い、学校全体で意識の高揚を図ることが引き続き課題である。	○自転車事故ゼロ及び登下校時のマナーに関する苦情件数を減少させる。 ○スマートフォンでの各年次指導件数を減少させる。	①毎月の生徒指導強化週間に学校外3か所で立哨指導を行う。 ②立哨指導の他、全校集会の場で管理職や生徒指導主任から「命の大切さ」、「交通安全」、「公衆道徳」などについて継続的に指導する。 ①生徒会本部と風紀委員で「スマホ8か条」のポスターを生徒の見易い箇所に掲示する。 ②集会、SHRなど様々な機会を通し、マナー、個人情報、人権、健康などの観点から指導する。	①休業期間を除き、毎月立哨指導を実施できたか。また、自転車に係る交通事故をなくすことができたか。(昨年度12件) ②登下校時のマナーに関する苦情件数が昨年度より減少したか。(昨年度5件) ①生徒会本部役員と風紀委員による啓発活動は予定どおり実施できたか。 ②各年次において、スマートフォンに起因する指導件数が昨年度より減少したか。(昨年度全体32件)	○自転車事故は激減し、交通マナーに関する苦情件数も昨年度より減少傾向にある。 ①毎月、生活指導強化週間を設け、年次指導部を中心に学校周辺道路での登校指導を実施した。加害事故は無し。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全校集会での対面指導は出来なかったが、各年次や担任の指導により苦情の多くは並列歩行への指摘に留まった。 ○スマートフォンの各年次指導の件数を大幅に減少させるまでには至らなかった。 ①生徒会が啓発ポスターを作成し、風紀委員会の生徒が中心となり、クラス掲示及びスマートフォン利用のマナー向上の啓発運動を実施した。 ②スマートフォンの全体指導件数は20件であり、前年度より減少している。	A	・毎月の生活指導強化週間において立哨箇所を昨年度から3か所増やした効果が表れている。地域の中核を担う本校への信頼を一層高めるためにも、苦情件数をさらに減らすことが課題である。 ・自動二輪車免許取得が可能になり、万一免許取得者がした際の安全指導等について事前に検討しておくことが今後の課題である。 ○スマートフォンの指導件数の7割が1年次であることから入学後早急に全体指導を行うことが課題である。 ・2年次生以上でも個人情報やネット上に掲載しネットパトロールから指摘される事象が発生していることから、スマホ8か条の徹底に加え、継続的な指導を講じることが課題である。	・生徒指導に係る課題が明確であることから、解決のための具体的な方策を期待したい。 ・越高生の交通マナーを守っている姿が中学生の手本になっていることに感謝申し上げたい。 ・歩行者も交通社会を構成する一員であることを忘れないよう引き続き指導願いたい。 ・コロナ禍で家庭で過ごす時間が増え、スマートフォンを使う時間も必然と増えることにより、それに起因するトラブルも発生し易くなっている。今後もご指導をお願いしたい。 ・生徒会主体でルールを徹底していく取組は素晴らしい。
4	○防災拠点施設として、地震・火災に加え水害時の対応も視野に入れた防災体制の構築を周辺自治会と連携していくことが課題である。 ○生徒募集については、引き続き地域の要請に応える姿勢を基本にしながらも学校における働き方改革基本方針とのバランスをとることも今後は求められる。 ○昨年度、懲戒処分こそなかったが、加害交通事故が数件発生した。今後は一昨年度発生した不適切な指導はもとより、交通事故を含め職員事故を本校から皆無にすることが強く求められる。	○周辺自治会との防災体制の確立とともに、地域や中学生に対し本校の魅力発信を充実させる。 ○不祥事を起こさない、起こさせない職場環境をつくり、職員事故をゼロにする。	①周辺自治会との防災協議会を開催する。特に水害時の対応も含め協議する。 ②中学校訪問、学校説明会、塾等主催個別相談会を活用し広報を積極的に行う。 ③部活動、年次等各部署の連携を強め、学校全体でこまめにHPの更新を行う。 ④地元中学校と調整し学習連携事業を実施する。 ①倫理確立委員会と連携し職員会議時に毎月ミニ研修を行う。 ②不適切な指導等のアンケートを毎学期実施する。 ③他校で発生した事故事例を通し、特に加害交通事故防止や情報セキュリティ事故防止を徹底する。	①予定通り開催できたか。また、水害時への対応についても協議できたか。 ②志願倍率が昨年度(1.34倍)を上回ったか。 ③学校行事や部活動の状況をタイムリーに更新できたか。 ④本校、中学校双方にとって有意義な活動となり地域貢献できたか。 ①ほぼ毎月実施することができたか。 ②アンケートを計画通り実施し、不適切な指導等の件数はゼロであったか。 ③加害交通事故や情報セキュリティ事故は発生しなかったか。	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対外的な催事を中止または縮小せざるを得なかった。 ①防災協議会の開催は見送り市防災訓練も延期となった。 ②中学校訪問は2回とも見送り資料送付に代えた。夏季休業中の学校説明会を11月に延期したが、予定通り3回実施、塾主催個別相談会に2回(9月、10月)参加した。 ③志願倍率は1.36倍となり、昨年度を上回った。 ④通常登校以降HP更新回数は月平均10回であった。 ③市内中学校教員対象授業公開を11月に実施、2校から参加があった。地元中学校への学習支援・学習連携は見送った。 ○教職員による不適切な指導等に係るアンケートに1件記載があったが、昨年度3件発生した加害交通事故は今年度はゼロであった。 ①不祥事根絶に係るミニ研修(N字目の研修)を毎月テーマを変え職員会議の冒頭で実施した。 ②アンケートを9月、11月、1月の3回実施した。1件記載があり教職員倫理確立委員会でも事実確認した。 ③加害交通事故、情報セキュリティ事故とも発生していない。	B	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を見送った地域防災協議会の開催が課題である。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、今後は学校説明会や部活動見学会の開催方法や運営方法の検討が課題である。 ・HPによる部活動の状況発信については、一部の部に偏るため、バランスよく多くの部活動が情報発信に努めることが課題である。	・来年度の感染状況にもよるが、中高の生徒間連携事業の再開をお願いしたい。 ・保護者の間で、部活動によってホームページの更新回数に大きな差があると伺っている。保護者が来校する機会が少ないだけに、学校の様子を知る上でも来年度は善処していただきたい。 ・中学生にとって、高校見学が思うようにならない現状で、ホームページの存在価値は以前にも増している。また、在校生の中にも、高校選択の際、インターネットからの情報を参考にしている者も少なくない。少しでも多くの部活動にホームページへの情報を掲載願いたい。 ・県内でも本校の知名度が高いとは言えない地区がある。今後は本校の良さを学校説明会だけでなく、民間主催の個別相談会等を通してアピールしてほしい。
5	○海外に興味・関心を持つ生徒・保護者は着実に増えており、昨年度の海外研修参加者は過去最大となった。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため海外研修を中止した。来年度に繋げるためにも国際理解教育推進委員会と英語科が連携し、新たな取組を開発し、将来、国際社会で活躍できる人材を育成していくことが進学校としての本校の課題である。	○国際理解教育の取組により、生徒の異文化理解と英語力を向上させる。	①外部講師を招聘し国際理解教育講演会を実施する。 ②英語力向上のため、GTEC及び英語検定の受験者数、合格者数増加に向けて各年次、関係分掌、教科が連携し組織的に取り組む。 ③講演会や授業の題材を基に、生徒がアウトプットする機会を設ける。	①国際理解教育講演会が予定通り実施できたか。 ②各検定試験の受験者数、合格者数やスコアが昨年度より上回ることができたか。(H31年度英検:受験者101名、合格者49名) ③ライティング力・スピーキング力の向上に関する生徒の自己評価の平均値が向上したか。	○国際理解教育推進委員会と英語科との連携により、生徒の異文化理解と英語力を向上させることができた。 ①3月上旬に国際理解教育講演会を実施予定である。 ②GTECを4技能全てにわたって1年次(12月)、2年次(1月)で実施した。また、英検の受験者数は215名、合格者数は135名(準1級6名、2級105名、準2級23名、3級1名)であった。 ③授業評価において、ライティング力及びスピーキング力に係る自己評価の平均値はいずれも3.7点(5段階)であり、ともに昨年度より向上した。(昨年度ライティング力3.5、スピーキング力3.4)	A	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も夏季短期海外研修実施は厳しい状況である。それに代わり、今年度参加した民間主催の短期国内留学プログラムへの参加を保護者の経済的負担も踏まえ検討することが課題である。 ・英検に加え、受験率、合格率とも前年度を超え、ライティング力・スピーキング力も向上している。生徒アンケートでも海外で活躍してみたいと考えている者が約4割いることを踏まえ、英語力の一層の向上に向けて組織的に取り組むことが課題である。	・将来海外で活躍してみたいと考えている生徒が約4割いることに生徒の意識の高さが窺われる。 ・感染状況にもよるが海外研修の機会を利用し、語学力の向上と地球的規模の視野を広げてほしい。 ・英検をはじめとする検定試験の高スコアが大学受験を有利にすることは確かである。したがって、1年次から計画的に取り組むことにより志望校への合格が近づくと思われる。 ・生徒の視点からは、リスニングにこれまで以上に比重をかけてご指導いただけると幸いです。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学校関係者評価
実施日 令和3年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・自宅での学習時間2時間以上が習慣になると良い。 ・年度当初の臨時休業期間中、スタディサブリを活用して家庭学習をしたり、メッセージ機能を用いて質問・相談したり有効活用していた。 ・スタディサブリやタブレットの活用が徐々に進んでいるようである。オンライン学習については今後も必要性を感じるので、オンライン学習環境の準備をお願いしたい。 ・スタディサブリについては、授業へ繋げられるよう上手に活用し生徒の学習に役立ててほしい。 ・ICTを活用した授業は生徒目線から大変分かり易いので、今後も続けてほしい。 ・タブレット等端末を今後も増やしていただけると、さらに生徒が主体的に学ぶ機会が増えると思われる。 ・「思考力・判断力・表現力」の育成や「主体的に他者と協働して学ぶ態度」の育成は、中学校でも課題である。今後も教員一人一人の授業に対する意識改革と研修が必要であると考える。</p> <p>・中学生の多くが大学進学を視野に入れている現状において、大学で何を学ぶか等、学ぶ目的を発達段階に応じて育成する必要性を感じている。 ・来年度は国公立大学進学希望者クラスを設置して最初の学年が受験することとなるので、成果が表れるよう期待している。 ・国公立大学進学希望者クラスは勉強に対するモチベーションも高いので存続していただきたい。 ・2年次保護者対象の進路説明会は非常に有意義であった。今後は内容にもよるが、下級生の保護者にも参加してもらおうが良い。 ・学習室の利用率も高いので、利用時間の延長や学習室の増設を望みたい。</p> <p>・生徒指導に係る課題が明確であることから、解決のための具体的な方策を期待したい。 ・越高生の交通マナーを守っている姿が中学生の手本になっていることに感謝申し上げたい。 ・歩行者も交通社会を構成する一員であることを忘れないよう引き続き指導願いたい。 ・コロナ禍で家庭で過ごす時間が増え、スマートフォンを使う時間も必然と増えることにより、それに起因するトラブルも発生し易くなっている。今後もご指導をお願いしたい。 ・生徒会主体でルールを徹底していく取組は素晴らしい。</p> <p>・来年度の感染状況にもよるが、中高の生徒間連携事業の再開をお願いしたい。 ・保護者の間で、部活動によってホームページの更新回数に大きな差があると伺っている。保護者が来校する機会が少ないだけに、学校の様子を知る上でも来年度は善処していただきたい。 ・中学生にとって、高校見学が思うようにならない現状で、ホームページの存在価値は以前にも増している。また、在校生の中にも、高校選択の際、インターネットからの情報を参考にしている者も少なくない。少しでも多くの部活動にホームページへの情報を掲載願いたい。 ・県内でも本校の知名度が高いとは言えない地区がある。今後は本校の良さを学校説明会だけでなく、民間主催の個別相談会等を通してアピールしてほしい。</p>